

徳川みらい学会第2回講演会



「東アジアの中での朝鮮通信使」

京都大学名誉教授 夫馬 進氏



徳川みらい学会の第2回講演会を

6月19日(月)、しずぎんホール「ユーフォニア」で開催。京都大学名誉教授の夫馬進氏が「東アジアの中での朝鮮通信使 朝鮮燕行使と朝鮮通信使」をテーマに講演しました。6月19日は徳川家康公が朝鮮通信使を清水港でもてなした日で、毎年、朝鮮通信使講演会を開催。終了後、徳川みらい学会総会を開催し、新会長に小和田哲男氏が就任しました。講演要旨は次の通り。(文責：企画広報室)

中国の明、清の時代の研究で中国の地方文書を収集していたところ、山東図書館で、1826年の朝鮮燕行使の申在植と中国の知識人との筆談記録「筆譚」に出会いました。

そこには、1811年の朝鮮通信使として日本で朱子学が顧みられなくなつたことを知り、1822年の燕行使として中国でも朱子学が顧みられなくなつたことを知り、孤立感、危機感を深めた金善臣が「中国の漢学は間違いで、朝鮮の朱子学が正し

い」と中国の知識人と執拗に論争したことが記録されていました。

そこで私は、通信使と日本の儒者との筆談記録を読み、通信使と燕行使を対比し、東アジアの中で、どう位置づけられるかを考えました。

東アジアの中での通信使

ソウルを起点として南へむかう通信使。ソウルから北へむかい、瀋陽を経て北京へ到着する燕行使。燕行使は1637年～1894年に494回、通信使は1607年～1811年に12回、送られました。

朝鮮の外交原理は、中国に事える「事大」と、日本、女真などに対する「交隣」の2つ。「交隣」は、大國朝鮮が小國日本を字(づ)く上下関係在意味し、日本は羈縻(きび)暴れ馬が暴れないように口を結わえておく(こと)の対象でした。通信使は平和の象徴で、その目的は、国王の信書を送りあうことで両国が敵対関係にないことを確認し、日本の国情を視察し、文化的に遅れた日本を教育することにありました。

通信使との学術交流の変遷

徳川家康は、朱子学を国家の学問として育てようとした。1607年～1711年の朝鮮通信使と日本の儒者との筆談記録を読むと、通信使が先生で、日本の儒者は学生という上下関係はつきりしています。

ところが、1719年の通信使は伊藤仁斎の学を知り、1748年の通信使は荻生徂徠の学を知ります。当時の朝鮮は中国との学術交流を止めていたので、1764年の通信使は、荻生徂徠の著作を熟読し、日本の学術へ高い関心を示しました。

燕行使と通信使の接点

1765年の燕行使の洪大容は、北京で中国の知識人と私的な交流を行つて帰国すると、ソウルで1764年の通信使と交流。日本の学術を知り、通信使が持ち帰つた日本の拓本を中国人に送り、拓本は1839年に北京で出版されています。

「戦國本多塾」 聴講者募集!

家康研究の第一人者
本多隆成 静岡大学名誉教授が、
家康の主要な戦6つを解説!

講座内容

- ①「信玄と三方ヶ原の戦い」
(平成29年10月7日(土))
- ②「勝頼と高天神城をめぐる攻防」
(平成29年11月8日(水))
- ③「秀吉と小牧・長久手の合戦」
(平成29年12月9日(土))
- ④「豊臣」惣無事」政策と小田原攻め」
(平成30年1月13日(土))
- ⑤「関ヶ原の戦いと『小山評定』」
(平成30年2月3日(土))
- ⑥「秀頼と大坂の陣」
(平成30年3月17日(土))



時間 13:30～15:00
場所 常磐町アイワビル4階ホール
(葵区常磐町1-8-6)

受講料 1回2,500円 (全講座受講の場合は12,000円)

申込方法

氏名住所・電話番号希望講座(①、②、全講座など)を明記してFAX(054128419650)またはハガキ(〒42218033駿河区登呂3-1-1 静岡新聞社内 徳川みらい学会戦國本多塾係)でお知らせください。(受付後、振込口座を郵送でお知らせします)

締め切り/平成29年8月31日(木)

定員 50人(申込先着順)
問い合わせ先/徳川みらい学会事務局
(TEL 054128419660)